

「2020年北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「インドネシア交流デー」を開催



集合写真

2月21日（金）、22日（土）に、インドネシア共和国ボルネオ島南カリマンタン州のランブン・マンクラート大学で、「2020年北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「インドネシア交流デー」を開催しました。インドネシアで同様の行事が開催されるのは昨年のパランカラヤに続いて2回目です。在インドネシアの北海道大学同窓生50名と、ランブン・マンクラート大学教職員・学生が約100名、また、在スラバヤ日本国総領事館の谷 昌紀総領事が出席しました。谷総領事は初日の開会式から、同日、南カリマンタン州知事公邸で開催された夕食会迄参加され、その模様は総領事館のSNSで発信されました。

開会式の後、本学学務部の奴賀 修国際交流課長より「Hokkaidoサマー

インスティテュート」の紹介説明が、本学水産科学院出身で環境コンサルタントとして活躍するキャサリン・ウィナタ氏、NPO法人アジアの仲間による航空フォーラムの伊佐田剛理事、広島大学卒業生で現在ランブン・マンクラート大学に所属するアビップ・アムルラ研究員から、日本やボルネオ島の持続可能ツーリズムについての講演が行われました。

22日（土）には、ランブン・マンクラート大学農学部が関わり、キノコの品種改良及び栽培を行うベンチャー企業の視察を行いました。現地の高温に耐えられるよう改良できたキノコ17種の内、最も売上を見込める1種を主に出荷し、1日で現地の1ヶ月分の最低賃金を創出することに成功しています。21日（金）の会場においても、主

婦層に雇用機会を与えられる靴製作事業が紹介されるなど、同窓生の社会貢献活動が際立っていました。

次回2021年の開催は、スマトラ島のパレンバン市にあるスリウィジャヤ大学を会場とすることで合意されました。

（農学研究院・国際連携機構）



キノコの家



在インドネシア同窓生集合写真